如斯趣にて、秀宮樣には下立賣御門之內下ル處へ、東山院之御舊殿を被用、從江戸造作被成進、千石に而親王家一軒、新規之御取立被進、今之閑院樣是也、是も中御門院御幼年之砌は、隨分御儒弱に見へ給ひける故、其事關東へも洩聞へ、若もの事欠にと思召入有之而、俗親王にて被差置也、夫故格別の思召入依有之被仰出けると、去御秘談承りし所也、然共末代俗親王四軒の列に立給ふ事、結構成御事也、關東の御書出しなかりせば、何地かの門跡方の御附弟となり給ひ、沙門の物うき御境界たるべきに、文昭院樣（德川家宣）天下を去ろし召れし時、禁庭御裁判之始なりし故、國王へ對し、仙洞樣へ之御手前、何角にかく被仰出ける物ならんと、無沙法に乍恐奉感歎御事ぞかし、（略）（節）

〔折たく柴の記中〕廿七日（寶永六年正月）に參し時に、また封事を奉る、（略）（中）此封事御覽の後仰下されし事ふたゝび三たびのゝち、申す所そのことわりあり、（略）（中）やがて今の法皇（東山）の皇子秀の宮とか申す御事、親王宣下あるべき由を申させ給ひたりけり、

○按ズルニ、伏見、有栖川、桂、閑院ノ四家ヲ世襲ノ親王家ト爲シ、之ヲ四親王家ト稱ス、

〔實麗卿記〕文久三年二月一日、從正親町回文來、續左、（廿九日附）

青蓮院宮

方今國事扶助精勤ニ付、非常以格別思召、還俗御內意被仰出候旨、加勢長谷三位被申渡候、（略）（下）

〔議奏言渡〕文久三年二月十七日、青蓮院宮、自今被稱中川宮候旨、阿野殿御奉被仰出候旨申達、八月廿七日、頭左中辨、彈正尹宮、任官消息宣下相濟旨言上、（御名字朝彥之旨被屆）以兒申上、彈正尹宮、今日元服任官宣下目出思召候、御大刀一腰、御馬一匹、（代黃金十兩）綿十把、二種一荷等賜之旨、目錄以越後被出、愛宕侍從申渡、尹宮參上、被伺天氣、今日元服任官宣下、名字宸翰拜領、以御使御品々拜領御禮被申上、賜祝酒、後時於御前御掛緒拜領御禮等、各以表使申入候、十二月九日、尹宮御參、今日隨身兵仗勅授帶劍宣下御禮被申上、以表使申入、先是消息宣下相濟候旨頭辨言上、以藤丸申上、元治元年十